

市民との対話事業 **市長とふれあいトーク**

実施日時	平成 26 年 3 月 27 日 (19 : 00~20 : 10)		
実施場所	芋川多目的集会施設センター	参加人数	15 人
参加対象	倉俣地区振興会		
懇談内容	<p>1. 発言者 小学校の統廃合について、地域全体を見直して新たに小学校をつくるというのはいかがでしょうか。</p> <p>市長 地域で議論をしてもらい、総意で進めるべきものと考えます。子どもたちの幸せを一番に考えていけたらいいと思う。</p> <p>2. 発言者 この地域では農業従事者が多いが、みんなが楽しく農業ができていないのではないかと。前よりもよくなっているように見えない。</p> <p>市長 市でも農業者の所得増加に向けた取り組みを進めている。今よりも高く売るため、付加価値の高い商品づくりや、市が率先して売り先を確保することなどを行う。JA と協力して、米をしっかりと守りながら米以外にもチャレンジして成功する例を作っていきたいと思っている。</p> <p>3. 発言者 園芸振興対策でお願いがある。近年の施策は「新規や規模拡大」する人に対する支援が中心だが、昔からやっている人にも支援策を行ってほしい。</p> <p>市長 条件面についての要綱は、市である程度弾力的に運用できなくはない。要綱整備の時に、以前から農業に従事している人にも恩恵があるように検討していかなければならないと思う。</p> <p>4. 発言者 市役所は、本庁と各地域に支所があるが、十日町支所をつくり、本庁と5支所にしてはどうか。十日町をよく知った職員を配置することで、災害時などスムーズに対応ができると思うが。</p> <p>市長 今までは、支所を縮小し、サービスセンター化するような方向に向かっていたが、国の方向転換があり、支所機能を維持しているところに補</p>		

助ができるようになる。これにより支所の人数を増やすことができるのではないかと考えている。

また、26年度から郵便局と連携した行政サービスの提供を行うこととしており、住民サービスもさらに充実できると思う。

5. 発言者

赤字経営の温泉施設をなくせないのか。

「ゆくら」が値上がりするが、なぜ値上がりするのか聞いたら、赤字の補てんのためだと聞いた。納得できない。

市長

「ゆくら」の運営も厳しい状況である。国から消費税増税分は飲み込まないようなとの方針があった。赤字が出ると税金で補てんしなくてはならない。そういう中で、どこまでお願いできるかを、総合的に判断して上げさせていただいた。

6. 発言者

芋川有志の会で「ゆくら」裏のフレッシュパークを管理している。現在の子どもたちの遊びのほとんどが、大人が作った遊びである。子どもたち自身がやりたいことをやれる場所がない。フレッシュパークに子どもが考え、遊べる場所を作りたい。

市長

地域の皆様がやっていただけるなら、応援させていただく。